

ローズグラスの種子生産に関する研究

(第2報) 播種期・播種様式・施肥量について

佐藤博保・吉山武敏・大山一夫・中嶋紘一・鶴見義朗

(九州農業試験場)

ローズグラス種子の輸入は年により不安定でさらに価格も高い。このため、国内における採種を図る必要があり、栽培法を検討した。

試験方法

① 試験区分

要因	水準		
	水		
播種期	5月7日	5月27日	6月17日
播種様式	散播	50cm条播	100cm条播
施肥量	無肥	標肥 (1.0kg/a)	倍肥

② 1区面積及び区制

4m×3m=12m², 分割試験区法3反復

③ その他の耕種法：播種量は1.0kg/aとし、施肥法は表層施肥とする。

試験結果

各播種期別の種子収量は、播種期の早い程多収となり6月7日播は5月7日播の74%にとどまった。施肥量の効果は、無肥が劣り、標肥と倍肥では有意な差がなかった。播種様式では、散播、条播共収量差は少ない。交互作用についてみると、早播での施肥量の多寡には差が少ないが、晩播にすると無肥の減少が多くなる。また、無肥での条播は減収しており、更に晩播での100cm条播は減収した(第2表)。

種子収量と関連の深い穂数についても調査した。1m²内の穂数は、全処理区平均すると300本前後になるが、播種期別にみると、5月27日播が324本で最も多く、5月7日播はこれに匹敵したが、6月播はこれの86%で有意に減少した。施肥量別には無肥が劣り、播種様式別では条播が劣った。交互作用としては、晩播における無肥晩播における100cm条播にそれぞれ穂数の減少があった。

これらのことから、採種栽培法として、6月播は減収の可能性があって、少なくとも5月中に播種すること、施肥量は1.0kg/a以下とし、播種様式は倒伏、作業上のことも考慮して、50cm条播とすること等を結論した。

また種子収量に関する諸形質を調査し、相関を求めた所、精選重と粗選重の相関係数が高いのは当然として粗選重と乾物重、茎数、穂数で比較的相関が高いが、穂の大きさについては低いことがわかった(第1表)。

第1表 種子重及び諸形質の相関係数

	粗選重	乾物重	草丈	茎数	穂数	穂長	枝梗数
精選重	.83	.38	.30	.44	.19	.12	-.28
粗選重		.57	.42	.46	.42	.20	-.24
茎葉重			.39	.56	.61	.19	-.25
草丈				.57	.57	.11	-.39
茎数					.81	.46	-.32
穂数						.36	-.33
穂長							.25

第2表 播種期、播種様式、施肥量別ローズグラスの種子収量

(kg/a)

播種期	時期×肥量				時期×様式				肥量×様式		
	無肥	標肥	多肥	平均	散播	50条播	100条播		散播	50条播	100条播
5月7日	3.69	3.82	3.59	3.70	3.48	3.69	3.93	無肥	2.90	2.59	2.68
5月27日	2.30	3.42	3.94	3.22	3.08	3.41	3.17	標肥	2.93	3.77	3.61
6月17日	2.17	3.06	2.97	2.74	2.74	2.90	2.58	多肥	3.46	3.65	3.39
平均	2.72	3.44	3.50		3.10	3.33	3.23				